



1055.

シギ類に寄生するハジラミの分類 (その1)

中 川 宏

資源科学研究所

On the Mallophaga from Limicolae (Aves) in Mr. Sakane's collection.

Miscellaneous Paper on the Mallophaga from

the Japanese Limicolae, (I)

By NAKAGAWA, Hiroshi

鳥獣集報 第17巻 第1号 別刷

Reprinted from Japan Wildlife Bulletin, Tokyo,

Vol. 17, No. 1

May, 1959



NAKAGAWA, Hiroshi: On the Mallophaga from
Limicolae (Aves) in Mr. Sakane's collection.

Miscellaneous Paper on the Mallophaga
from the Japanese Limicolae, I.

シギ類に寄生するハジラミの分類 (その1)[†]

中 川 宏

[資源科学研究所]
[東京都新宿区百人町4]

鳥類の研究家である坂根 干氏(伊丹)はその寄生者であるハジラミにも興味をもたれ、1953年内田清之助博士のもとに一連のシギ寄生ハジラミを送り、同定をこわれた。この材料は博士御多忙のためしばらくお手もとにとめおかれたのであるが、最近(1958年)、博士はその同定を著者に依頼された。坂根氏は私信によると、その後も採集を続けられている由で、内田博士が報告された若干種を除き、シギ寄生ハジラミが日本から殆ど知られていない今日^{*}、その蒐集品は貴重な存在といえるであろう。

供試標本は苛性ソーダの処理を行なわぬまま封入された18枚のスライドからなり、15種類の宿主に由来するものである。同定の結果は次の目録に示す通りで、短角ハジラミ2属、長角ハジラミ5属よりなる。

一般に、短角ハジラミ群は雄生殖器官の分化がおくれ、多数の標本の照合なしには同定することが困難である。なお、スライドに附せられた番号はスライドの一連番号で、宿主の整理番号を示すものでないが、スライドは宿主の個体別に整理したのちに、一連番号を附す方が便利と思われる。図は主として著者所蔵の標本よりカメラルシダを用いて作製したものである。

同 定 結 果

A. Menoponidae (Amblycera)

I. *Actornithophilus* FERRIS, 1916

1. *Actornithophilus flavipes* (GIEBEL) 1874

宿主: *Squatarola squatarola* ダイゼン

供試標本, 2 ♂♂, 3 ♀♀ (slide no. 53)

2. *Actornithophilus svobodyae* BLAGOVESHCHENSKY, 1953

宿主 *Vanellus vanellus* タケリ

[†] 資源科学研究所業績第 944 号

^{*} 著者は先に昆虫学会大会(1957)において「日本産ハジラミ目録」の題のもとに講演しシギ寄生のハジラミにもふれたが、この目録は印刷されていない。

供試標本, 3 ♀♀ (slide no. 3)

BLAGOVESHCHENSKY (1948) はタゲリ寄生の種類に, *A. ochraceus* (N.) を用いたが, その後同著者 (1953) は新種として記載した。

3. *Actornithophilus* sp.

宿主: *Calidris minutilla subminuta* ヒバリシギ

供試標本, 1 ♂, 2 ♀♀ (slide no. 20)

ヒバリシギ寄生の種類はトウネン寄生のそれから区分できない。著者はこれらを未記載種と考える。

II. *Austromenopon* BEDFORD, 1939

4. *Austromenopon* sp.

宿主: *Tringa stagnatilis* コアオアシシギ

供試標本, 1 ♀ (slide no. 116)

本種は *A. letesceus* に近いが雌のため完全な同定ができない。しかし本種は *letesceus* group に入る新亜種とさるべきであろう。

5. *Austromenopon corporosum* (KELLOGG & KUWANA), 1901

宿主: *Lobipes lobatus* アカエリヒレアシシギ

供試標本: 1 ♂, 2 ♀♀ (slide no. 16)

最近 TIMMERMANN (1956) はアカエリヒレアシシギ寄生のハジラミに *A. speuceri* の名を与えたが, 著者は先に KELLOGG & KUWANA の記載した種類から区分できないように思う。

B. *Phlopteridae* (Ischnocera)

III. *Cummingsiella* EWING, 1930

Cummingsiella は *Saemundssonina* に近く, 又同一の宿主に寄生する場合があり, 19世紀の研究者はしばしば両者を混同させて用いたため, 同一の種名の下に報告された種類が, 著者ごとに内容を異にし, この整理は今世紀の研究者の重要な課題の一つであつた。これについての論議は UCHIDA (1949, p. 538) における *Phlopterus auratus* (N.) と関連して, 他の機会に行ないたい。

6. *Cummingsiella ovalis* (SCOPOLI), 1763

宿主: *Numenius arquata orientalis* ダイシャクシギ

供試標本, 1 ♂, 1 ♀, 2 LL (slide no. 31), 4 ♀♀ (slide no. 30)

7. *Cummingsiella ambigua* (BURMEISTER), 1838

宿主: *Capella gallinago* タシギ

供試標本, 2 ♂♂, 1 ♀, 1 L (slide no. 52)

8. *Cummingsiella* sp.

本標本

こが、そ

記載種と

sceus

ri の名
に思ふ。

, 19 世
頃が、著
しについ
て、他の

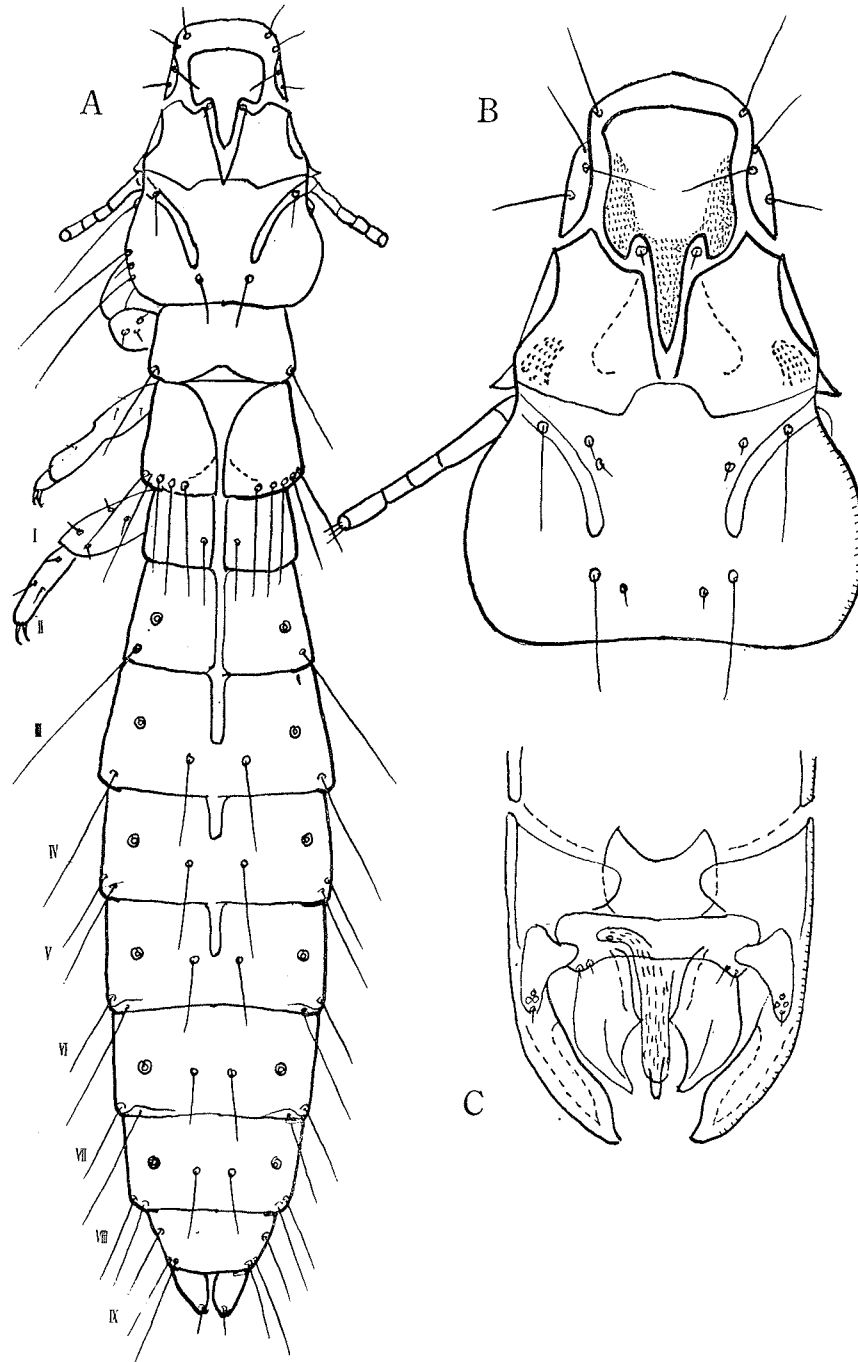


図1. *Proneptis semifissa* (N.) in Giebel, 1866, ♂.
A. 全形脊面. B. 頭部脊面. C. 雄生殖器.

宿主: *Numenius phaeopus variegatus* チェウシャクシギ

供試標本, 4LL (slide no.)

本標本は幼虫のため、種の同定ができない。著者は自己所蔵のチェウシャク寄生ハジラミを

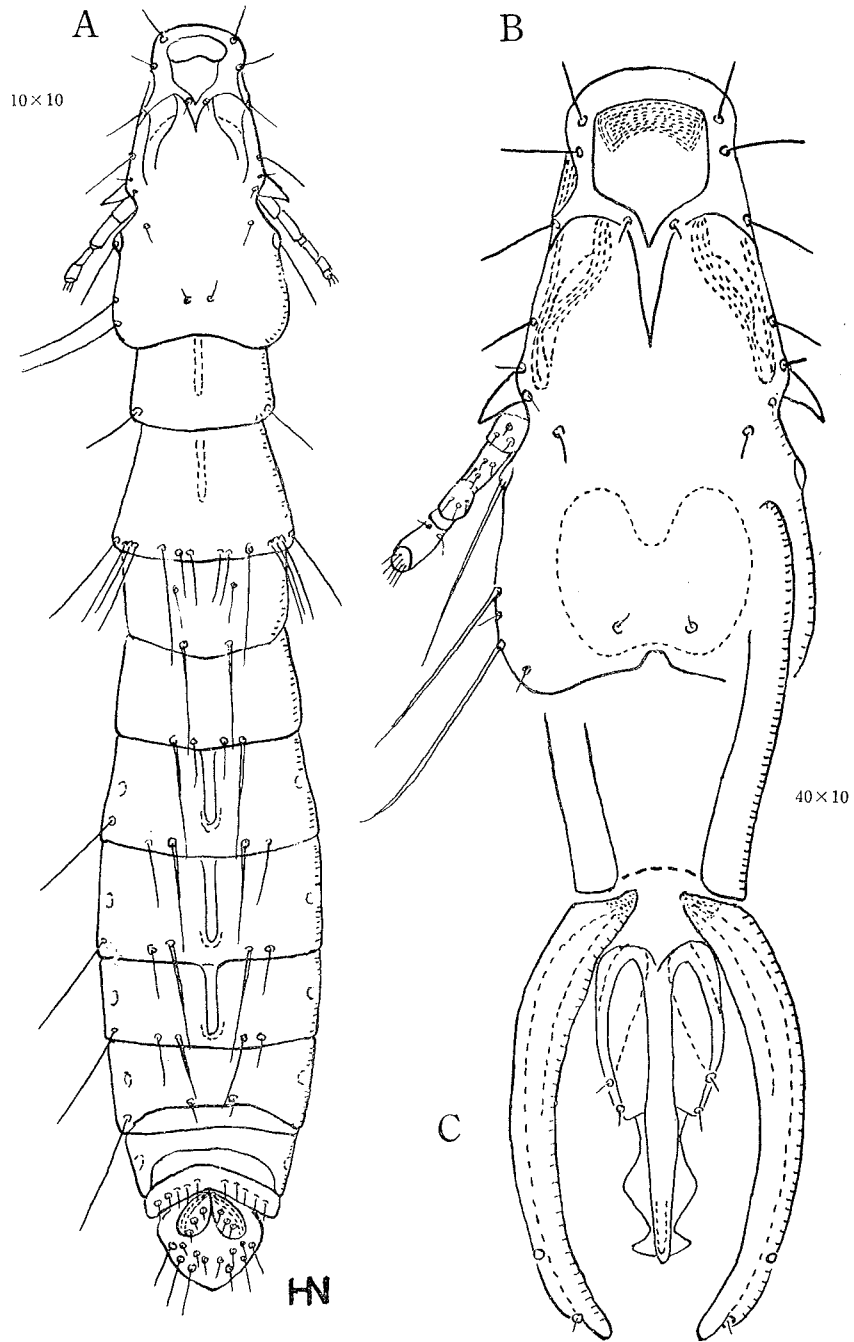


図2. *Quadriceps connexus* (K. & M.), ♂
 A. 全形脊面. B. 頭部脊面. C. 雄生殖器.

検討したが、*Austromenopon phaeopodis* (S.), *Luniceps phaeopi* (D.), *Saemundsonia scolopacis-phaeopodis* (S.) 及び *Caradviceps* sp. の4種からなり、*Cummingsiella* を含んでいない。しかし他の *Numenius* に *Cummingsiella* の寄生をみる事実からみて、本宿

明
Q.
な
dr
ず
は
感
str
の
氏
sk
と

主にも *Cummingsiella* が寄生することは充分想像できる。

IV. *Saemundssonina* TIMMERMANN, 1935

9. *Saemundssonina temporalis* (GIEBEL), 1874

宿主: *Vanellus vanellus* タゲリ

供試標本, 3 ♀♀ (slide no. 1)

10. *Saemundssonina fusiformis* UCHIDA, 1949 nec DENNY, 1842

宿主: *Calidris r. rufficollis* トウネン

供試標本, 3 ♀♀ (slide no. 89)

本種については他の機会に報告する。

11. *Saemundssonina* sp.

宿主: *Numenius madagascariensis* ホウロクシギ

供試標本, 3 ♀♀ (slide no. 79)

V. *Quadriceps* CLAY & MEINERTZHAGEN, 1939

12. *Quadriceps obscurus* (BURMEISTER), 1838

宿主: *Tringa totanus eurhinus* (Straggler) アカアシシギ

Calidris canutus rogersi (Straggler) コオバシギ

供試標本, 1 ♂, 4 ♀♀ (slide no. 104), 1 ♂, 1 ♀ (slide no. 110)

本種は元来タカブシギ, コアオアシシギに寄生するもので, 上記二宿主における寄生例を説明することは困難である。著者は基本宿主タカブシギ (*Tringa glareola*) よりえた一連の *Q. obscurus* とこれらの標本を比較したが, 雄生殖器に若干の差がみられるとしても, 本質的な差がなく, 種的な差とみなすことはできない。著者が日本産 *Tringinae* に寄生する *Quadriceps* を整理した際, *Q. obscurus*, *similis*, *furvus*, *conformis*, *ravus*, *impar* 等はいずれも寄生者と宿主の関係は明瞭で, 混乱のないことを認めている。上記のうちアカアシシギは *conformis* の寄生をうけるものであり, それが *obscurus* により置換される事実は意外の感が深い。

しかし他方, 著者自身の経験では一例であるが, キョウジョシギに本来のハジラミである *strepsilaris* と並んで, *obscurus* 及び *conformis* の寄生例をみとめている。この宿主は他のシギ類と共に捕獲されたものでなく, 汚染によるものでないことが証明できるが, もし坂根氏の場合も本例と同様に上記二宿主にみられたハジラミが, 宿主の同定の誤り, 若しくは他の skin による汚染に基くものでないことを証明されるならば, この例は *obscurus* の異常寄生として興味深い事例となるであろう。

13. *Quadriceps semifissa* (NITZSCH), 1866 in GIEBEL

宿主: *Himantopus h. himantopus* セイタカシギ

供試標本, 1 ♂, 1 ♀ (slide no. 120)

TIMMERMANN (1953) は本種を genotype として新属 *Proneptis* を設立した。図 1 に示す通り, 確かに頭部, 雄生殖器の構造は特異であり, そのためにすくなくとも亜属としてみとめるであろう。なお, 同著者 (1953) が雄として示した図は, 剛毛式, 変形節からみて雌であると思われ, ここに雄の図を附し訂正しておく次第である。

著者は本種と *mexicanus* (メキシコセイタカシギ *H. mexicanus* 寄生) を比較したが, 供

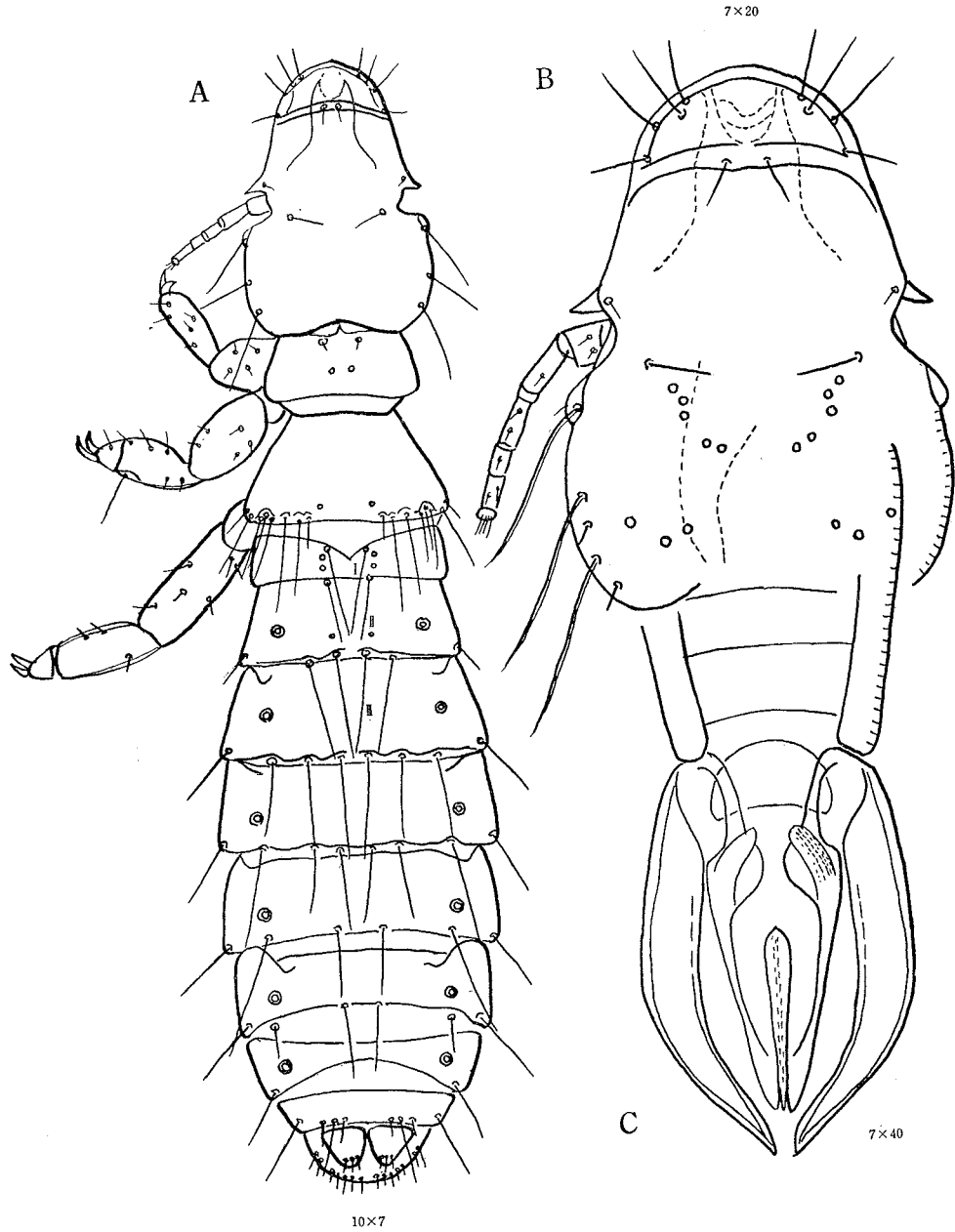


図 3. *Luniceps numenii* (D.) ♂.

- A. 雄全形背面.
- B. 頭部背面.
- C. 雄生殖器.

試標本が少数のため Carriker の亜種 *mexicanus* を本種の異名とする TIMMERMANN の見解には態度を保留する。

14. *Quadriceps pallasi* TIMMERMANN, 1954

宿主: *Charadrius mongolus stegmanni* メダイチドリ

供試標本, 1 ♂, 2 ♀♀ (slide no. 29)

15. *Quadriceps connexus* (KELLOGG & MANN), 1912

宿主: *Lobipes lobatus* アカエリヒレアシシギ

供試標本, 1 ♂, 2 ♀♀ (slide no. 69)

VI. *Luniceps* CLAY & MEINERTZHAGEN, 1939

16. *Luniceps actophilus* (KELLOGG & CHAPMANN), 1899

宿主: *Crocethia alba* ミユビシギ

供試標本, 1 ♂, 3 ♀ (slide no. 114)

ミユビシギには更に *Actornithophilus albus*, *Caraduceps complerinus* が寄生するが、これらは今回の同定品に含まれていない。

17. *Luniceps numenii* (DENNY), 1842

宿主: *Numenius arquata orientalis* ダイシャクシギ

供試標本, 2 ♂♂, 1 ♀ (slide no. 33)

「大形の宿主には大形のハジラミが寄生し、小形の宿主には小形のハジラミが寄生する」という、いわゆる Harrison の法則は長角ハジラミ群にはよく適合する。著者の手もとにはダイシャクシギ寄生の *Luniceps* の他、ハウロクシギ、チュウシャクシギ、コシャクシギ及びメキシコシャクシギ寄生のものがあるが、これらについても大略上記の法則が適用できる。

メキシコシャクシギ (おそらくアメリカシャクシギの異名) 寄生の標本には Dr. CARRIKER により *L. phaeopi* と同定してあるが、真の *phaeopi* よりはるかに大形で、色々の点からみてダイシャク寄生の *numenii* 近縁である。図 3 に示す通り、頭部、胸部及び腹部 I—II 節 (両者は融合する) には剛毛とならんで感覚孔をそなえるが、これらは安定した特徴である事実を強調したい。

VII. *Caraduceps* CLAY & MEINERTZHAGEN, 1939

18. *Caraduceps* sp. nov.

宿主: *Calidris minutilla subminuta* ヒバリシギ

供試標本, 4 ♂♂, 1 ♀ (slide no.)

Caraduceps の宿主分布は極めて特徴的である。即ち本属は *Quadriceps*, *Saemundssonina* に比べ宿主分布が狭く、加えて又、*Quadriceps* の寄生をみる宿主にみられず、*Luniceps* と共棲することが多い。本属は現在の所、オグロシギ属 (*Limosa*)、シャクシギ属 (*Numenius*)、オバシギ属 (*Calidris*)、ミユビシギ (*Crocethia*)、エリマキシギ属 (*Philomachus*)、

ハイイロヒレアシシギ属 (*Phalaropus*), ソリハシシギ (*Xenus*) 等より知られるにすぎない。

ヒバリシギ寄生の種類は狭義の *Calidris* から報告される最初の種であるが、雄生殖器官においてトウネン、ウヅラシギ寄生の種類にもつとも近く、本種の把握器 *paramere* はその先端部において、そのまま内方に弧をえがいて終るに反し、トウネン寄生の種類においてはその先端部が外方にそり、その他 *telomere* の巾も異なり共に未記載種と考える。

附 記

本稿を完成した後で、著者は伊丹に坂根干氏を訪ね、疑問をもつたアカアシシギの採集状勢をおたずねした所、氏より次の如き御返答に接した。この件についてはあらためて坂根氏が報告されるであろうが、要点をかきとめておきたい。氏は同一の群にアカアシシギとタカブシギを認められ、先ずアカアシシギを銃猟され、日をあらためられてタカブを銃猟された由で、*skin* による汚染は考えられないとのことであつた。著者はアカアシシギよりえた標本を坂根氏宅で検した所、アカアシシギ本来の寄生者である *Quadriceps conformis* が *obscurus* と混入している事実をみとめることができた。従つてアカアシシギにおける *obscurus* は明らかにタカブシギより導入されたもので、異常寄生例の一つとして記録したい。

文 献

- Blagoveschensky (1948): *Parasi. Mag. zool. Inst. Sci. Acad. U. S. S. R.* 10: p. 259—294.
- (1951): *ibid.* 13: 272—327.
- Clay, T. & Hopkins, G. H. E. (1951): *Bul. Brit. Mus. (Nat. Hist.) Ent.* 2 (1): p. 21—24.
- Hopkins, G. H. E. & Clay, T. (1953): *Ann. & Mag. Nat. Hist., ser 12*, 6, 448.
- Hopkins, G. H. E. & Timmermann, G. (1954): *Trans, R. ent. Soc. Lond., 105* (8): p. 131—150, with two plates.
- Timmermann, G. (1953): *Bombus*, 78/79, p. 329—336.
- (1954): *Zool. Anz.* 152 (7/8) p. 163—177.
- (1954): *Ann. & Mag. Nat. Hist. ser. 12* (7): p. 623—637.
- (1954): *Bonn. zool. Beitr.* 5: p. 195—206.
- (1956): *ibid.* 7: p. 186—192.
- Uchida, S. (1949): *Jap. med. J.* 1 (6): p. 535—556.

Summary

Apart from some informations on the Mallophaga of the Japanese Limicolae, there is little attention has been paid on ~~the~~ this parasite fauna of our country. Mr. K. SAKANE at Itami, Hyogo, an active observer of the Limicolae in Osaka Bay, has an interest on the Mallophaga from this host group and sent for determination a part of the material collected by him to Dr. S. UCHIDA in 1953. Two months ago, Dr. UCHIDA asked me to determine it and thus, I got a wellcome opportunity to compare it with the collection in my hand. For which I am indebted to Dr. S. UCHIDA and Mr. K. SAKANE.

The material is consisted of 18 slides, ⁶ Containg new ones to our knowledge on the Japanese Mallophaga fauna. It is in rather poor condition owing to the preparation without treatment of KOH.

The identification of the specimens of Mallophaga ~~identified~~ by myself is listed under their hosts:—

Lobipes lobatus (L.).

Austromenopon corporosum (Kellogg & Kuwana), 1901.

Quadriceps connexus (Kellogg & Mann), 1912.

Tringa totanus eurhinus (Oberholser). Straggler.

Quadriceps obscurus (Burmeister), 1838~~4~~

Tringa stagnatilis (Bechstein).

Austromenopon letescens ssp. Female only.

Numenius arquata orientalis Brehm.

Cummingsiella ovalis (Scopoli), 1763.

Luniceps numenii (Denny), 1842.

Numenius phaeopus variegatus (Scopoli).

Cummingsiella sp. Nymph.

Numenius madagascariensis (L.).

Saemundsonia sp. Female only.

Calidris r. ruficollis (Pallas).

Saemundsonia fusiformis Uchida, 1949 *nec* Denny, 1842.

Calidris minutilla subminuta (Middendorff).

Actornithophilus sp.

Caradviceps sp. nov.

Calidris canutus rogersi (Mathews). Straggler, 沢直に

Quadriceps obscurus (Burmeister), 1838.

Crocethia alba (Pallas).

Luniceps actophilus (Kellogg & Chapmann), 1899.

Capella gallinago (L.).

Cummingsiella ambigua (Burmeister), 1838.

Himantopus himantopus (L.).

Quadriceps (Proneptis) semififissa (Nitzsch), 1866.

Charadrius mongolus stegmanni Stresemann.

Quadriceps pallasii Timmermann, 1954.

Vanellus vanellus (L.).

Actornithophilus svobodyae Blagoveshtchensky, 1953.

Saemundssonina temporalis (Giebel), 1874.

Squatarola squatarola (L.).

Actornithophilus flavipes (Giebel), 1874.